|  |
| --- |
| 全日中「北海道大会」第２分科会「学習指導」 |

①研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現

②テーマ

～小・中９年間を見通した授業改善～

③発表者

福岡県京都郡苅田町立苅田中学校長　竹原昭夫

１、はじめに

変化の激しい時代の中で、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と共働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の担い手となることができるような」資質・能力を育成するために「読解力」「表現力」「納得解を生み出す力」等を身に付けさせなければならない。そのような中、教員の働き方改革にも取り組みながら、今回、「授業改善」を柱にして校内研究を行った。

２、学校、地域の状況

(1)教職員の状況

教員は４３人である。教員の年齢構成は２０代が８人、３０代が１４人と半数以上を占め、初任者教員が５人配置されている

(2)地域及び本校の課題と主題設定の理由

平成２６年度から２年間、「魅力ある学校づくり調査研究」を行った。「授業」を通して「居場所づくり」「絆づくり」に取り組み、交流活動の「学び合い」を通して自己有用感を高めた。

調査研究実施後は授業に主体的に取り組んでいる生徒の割合が多くなり、教員の授業づくり

に対する姿勢にも変容が見られたが、ここ数年は肯定的な意見が減少している。

３、実践の概要

(1)小中連携体制における授業改善

　①一貫性のある授業スタイルとして「苅田中学校モデル」の実施。

　②小中連携した研究主題として、教科の特性を踏まえた見方・考え方を重視したテーマ設定とした。

　③校長の働きかけとして、中学校区の校長会、教頭会、教務主任研修会等で共通理解を図った。

　④見通しをもった新任研究主任の育成として、前年度中に有望な中堅教員に来年度の校務分掌について相談を行った。

　⑤ミドルアップダウンによる研究の推進として、研究主任を中心とした各学年１名と特別支援担当、主幹教諭の５名で進めた。

　⑥若手教員の指導力向上として、「めあて」「見通し」「振り返り」といったオーソドックスなもので行った。

　⑦研究発表会の研究協議会の実施では、「授業中心」「同教科の交流」の重要性から「公開授業」と「分科会」に絞って実施した。

　⑧学力向上プランに基づいたＰＤＣＡサイクルの実施では、授業づくりを最重要課題として学期に１回アンケートを取り年３回評価・改善を行った。

４、研究、実践の成果と課題

成果としては、主体的に授業に参加していると答えた生徒が２６．７ポイント増加した。また、授業がわかると答えた生徒も１２．７ポイント増加した。

教員の意識調査では、導入を工夫するようになった教員が９割を超えており、教員の意識に変化が見られた。

課題としては、タブレット端末や電子黒板などのＩＣＴ機器を有効に活用した授業を進めていくことが必要である。

５、講評　福岡県　三宅中学校長　西村　和晃

校長のリーダーシップのもと、組織的に取り組んでいる。その内容としては、学力向上・若手教員の育成・中堅教員の育成であり、そのことにより生徒の主体的な取組が活性化されている。

また、校長のリーダーシップにより小・中の連携を行うことが生徒のために大切である。

報告者：門井　五雄（久喜市・鷲宮西中）